

2020年10月3日

神話のふるさと県民大学

日向神話の魅力—天照大御神を中心に—

平藤喜久子（國學院大學）

（1）はじめに

①世界の太陽神

- ・ エジプトのラー
- ・ シュメールのウトウ
- ・ メソアメリカのウィツィロポチトリ

などなど太陽神がとりわけ重要な神と扱われる例は多い

②最高神である女神

- ・ ギリシャ神話のガイアやアテナ、エジプト神話のイシスのように、偉大な女神とされ、神話の中でもその影響力の大きさが語られ、王、王権と関わる女神は他の地域にもいる。

* 太陽神が女神であり、なおかつ最高神が女神である例はほとんど見当たらない

（2）ギリシャ神話のアテナとの比較

- ・ 父親からの誕生
- ・ 武装する女神
- ・ 兄弟によって処女のまま母になる
- ・ 王家の祖となる

①アテナの誕生

- ・ アテナは、ゼウスと女神メティスの間の子だが、ゼウスは、メティスとの間に生まれる子によって王位を奪われると預言されていたため、妊娠したメティスを飲み込む。
- ・ その後ゼウスは激しい頭痛に襲われ、頭を斧で割ったところ、武装した姿でアテナが生まれた。

②処女のまま王家の祖となる

- ・ アテナに欲情したヘパイストスの精液が大地に落ち、大地が身ごもり生まれる。
- ・ アテナの子とされ、アテナイの王となった。
- ・ 生まれた子を箱に隠してアテナイ王ケクロプスの娘たちに預け、「中をみないように」というが、開いてみてしまい、発狂して身投げする。
- ・ エリクトニオスは、長じてアテナイ王となり、アテナを崇拝した。
- ・ 彼は移動のため戦車を発明した。

(3) 最高神としてのアマテラスの神話をどう読むか

①生まれながらの最高神：天照大御神の誕生（日本書紀第五段本書）

- 伊奘諾尊・伊奘冉尊、共に議りて曰はく、「吾已に大八洲國及び山川草木を生めり。何ぞ天下の主者を生まざらむ」とのたまふ。是に、共に日の神を生みまつります。大日靈貴と號す。一書に云はく、天照大神といふ。一書に云はく、天照大日靈尊といふ。此の子、光華明彩しくして、六合の内に照り徹る。故、二の神喜びて曰はく、「吾が息多ありと雖も、未だ若此靈（くしび）に異しき兒有らず。久しく此の國に留めまつるべからず。自づから當に早に天に送りて、授くるに天上の事を以てすべし」とのたまふ。

②父にもっとも愛された娘（天照大御神の誕生：古事記）

- 是に左の御目を洗ひたまふ時に、成れる神の名は、天照大御神。次に右の御目を洗ひたまふ時に、成れる神の名は、月讀命。次に御鼻を洗ひたまふ時に、成れる神の名は、建速須佐之男命。（中略）此の時伊邪那伎命、大く歡喜びて詔りたまひしく、「吾は子生み生みて、生みの終に三はしらの貴き子を得つ。」とのりたまひて、即ち御頸珠の玉の緒母由良迹取り由良迦志て、天照大御神に賜ひて、詔りたまひしく、「汝命は、高天の原を知らせ。」と事依さして賜ひき。故、其の御頸珠の名を、御倉板擧之神と謂ふ。

③男装する女神

- スサノオは、「妣の國根の堅州國に罷らむと欲ふ」といって泣きわめき、父イザナキに追い出される。すると、「然らば天照大御神に請して罷らむ。」といつて高天原へ赴く。
- しかしアマテラスは…
- 即ち御髪を解きて、御美豆羅に纏きて、乃ち左右の御美豆羅にも、亦御みかづらにも、亦左右の御手にも、各八尺の勾玉の五百津の美須麻流の珠を纏き持ちて、曾毘良迹は千入の鞞を負ひ、比良迹は五百入の鞞を付け、亦伊都の竹柄を取り佩ばして、弓腹振り立てて、堅庭は向股に踏みなづみ、沫雪如す蹶散かして、いつの男建踏み建びて待ち問ひたまひしく
- 母を求めるスサノオ
- 男装して迎えるアマテラス←女性性の拒否？

④処女のまま母になる

- 爾に天照大御神詔りたまひしく、「然らば汝の心の清く明きは何して知らむ。」とのりたまひき。是に速須佐之男命答へ白ししく、「各宇氣比て子生まむ。」とまをしき。故ここに各天安河を中に置きて宇氣布時に、天照大御神、先づ建速須佐之男命の佩ける十拳劔を乞ひ度して、三段に打ち折りて、奴那登母母由良爾、天の眞名井に振り滌ぎて、佐賀美迹迦美て、吹き棄つる氣吹の狭霧に成れる神の御名は、多紀理毘賣命。・・・
- 速須佐之男命、天照大御神の左の御美豆良に纏かせる八尺の勾玉の五百津の美須麻流の珠を乞ひ度して、奴那登母母由良爾、天の眞名井に振り滌ぎて、佐賀美迹迦美て、吹き棄つる氣吹の狭霧に成れる神の御名は、正勝吾勝勝速日天之忍穗耳命。・・・あはせて五柱なり。是に天照大御神、速須佐之男命に告りたまひしく、「是の後に生れし五柱の男子は、物實我が物に因りて成れり。

⑤スサノオの乱暴への対応

- 爾に速須佐之男命、天照大御神に白ししく、「我が心清く明し。故、我が生める子は手弱女を得つ。此れに因りて言さば、自ら我勝ちぬ。」と云して、勝佐備に、天照大御神の營田の阿を離ち、其の溝を埋め、亦其の大嘗を聞看す殿に屎麻理散らしき。故、然爲れども天照大御神はとがめずて告りたまひしく、「**屎如すは、酔ひて、吐き散らすとこそ我が那勢の命、如此しつらめ。又田の阿を離ち、溝を埋むるは、地をあたらしとこそ我が那勢の命、如此しつらめ。**」と詔り直したまへども、なほ其の悪しき態止まずて轉かりき。

⑥女性性への暴力で籠もる

- (古事記) 天照大御神、忌服屋に坐して、神御衣織らしめたまひし時、其の服屋の頂を穿ち、天の斑馬を逆剥ぎに剥ぎて墮し入るる時に、天の服織女見驚きて、**梭に陰上を衝きて死にき**。故是に天照大御神見畏みて、天の石屋戸を開きて刺許母理坐しき。
- (日本書紀第七段本書) 又天照大神の、みざかりに神衣を織りつつ、齋服殿に居しますを見て、則ち天斑駒を剥ぎて、殿の薨を穿ちて投げ納る。是の時に、天照大神、驚動きたまひて、梭を以て身を傷ましむ。此に由りて、發愠りまして、乃ち天石窟に入りまして、磐戸を閉して幽り居しぬ。

⑦世界に混乱をもたらす

- 爾に高天の原皆暗く、葦原中國悉に闇し。此れに因りて常夜行きき。是に萬の神の聲は、狭蟬那須満ち、萬の妖悉に發りき。

⑧出てくるきっかけは？

- 天宇受賣命、天の香山の天の日影を手次に繋げて、天の眞拆をかつらとして、天の香山の小竹葉（ささば）を手草に結びて、天の石屋戸にうけ伏せて蹈みとどろこし、神懸り爲て、**胸乳を掛き出で裳緒を番登（ほと）に忍し垂れき**。爾に高天の原動みて、八百萬の神共に咲ひき。

⑨アマテラスの復活

- 是に天照大御神、怪しと以爲ほして、天の石屋戸を細めに開きて、内より告りたまひしく、「吾が隠り坐すに困りて、天の原自ら闇く、亦葦原中國も皆闇けむと以爲ふを、なにのゆゑにか、天宇受賣はあそびをし、亦八百萬の神も諸咲へる。」とのりたまひき。爾に天宇受賣白言ししく、「**汝命に益して貴き神坐す。故、歡喜び咲ひ樂ぶぞ。**」とまをしき。かくまをす間に、天兒屋命、布刀玉命、**其の鏡を指し出して、天照大御神に示せ奉る時**、天照大御神、いよよ奇しと思ほして、やや戸より出でて臨み坐す時に、其の隠り立てりし天手力男神、其の御手を取りて引き出す即ち、布刀玉命、尻久米繩を其の御後方に控き度して白言ししく、「此れより内にな還り入りそ。」とまをしき。故、天照大御神出で坐しし時、高天の原も葦原中國も、おのづから照り明りき。

⑩このあとのアマテラス

- 天照大御神の命以ちて、「豊葦原之千秋長五百秋之水穗國は、我が御子、正勝吾勝勝速日天忍穗耳命の知らず國ぞ。」と言因さし賜ひて、天降したまひき。・・・爾に高御産巢日神、天照大御神の命以ちて、天安河の河原に、八百萬の神を神集へに集へて、思金神に思はしめて詔りたまひしく・・・
- 是を以ちて高御産巢日神、天照大御神、亦諸の神等に問ひたまひしく、「葦原中國に遣はせる天菩比神、・・・
- 他の神々と相談しながら支配をすすめるアマテラス
- スサノオがやってきたときとは違う判断の仕方

(4) おわりに

- 女神で太陽神、そして最高神という特徴を持つアマテラス
- ギリシャ神話のアマテラスとも類似点が指摘されてきた
- その神話を最高神、高天原の支配者として読み解いてみると、失敗を経て成長していく姿が見える。